

# 日本語学習者の補助動詞「～ておく」の習得について —中国人日本語学習者に対する指導方法をめぐって—

辻 周吾

追手門学院大学 非常勤講師

## 要旨

日本語の補助動詞「～ておく」は多義性・多機能の特徴を持っている。このような特徴は、中国人日本語学習者にとって理解に苦しむところとなっている。本研究では、まず、中日対訳コーパスから、そうした用法に対応する中国語を整理した。その際に、高橋（1969）、吉川（1976）、谷口（1999）の用法を参考にした。そして、中国人日本語学習者に対し、中国語の視点から、どのように説明すれば分かりやすいのかを考察した。分析の結果、中国語の、動作の完了を表す“了”、状態の持続を表す“在”や“着”、動作の完成を表す“好”、話し手の願望を表す“想”や“要”、利益や恩恵を表す“给”などによる意味のずれが明らかとなった。このずれを説明していけば、中国人日本語学習者の補助動詞「～ておく」の習得にもつながるだろう。

キーワード：補助動詞、～ておく、中国人日本語学習者、日中対照分析、日本語教育

## 0. はじめに

「～ておく」構文の摩擦例では、ある日本人駐在員の「これ、やっておいて」という指示を、中国人スタッフが「～ておく」の意味を理解できず、「時間があったら、やる」という意味に受け取る誤解がみられる。また、中国人留学生の「調べてあげます」のような、「ヤリモライ」文での誤用はよく耳にする。しかし、同じ状況でも、「調べておきます」という適切な表現は、あまり耳にしない。こうした諸問題こそが、補助動詞の「～ておく」を研究課題とするゆえんである。

本研究では、中国人日本語学習者に対し、どのように「～ておく」の多様な用法を指導していくかを考察する。その際に、先行研究における用法を参考にする。まず、日本語文の中国語訳から、そうした用法に対応する中国語を見つけ出した。つぎに、中国人日本語学習者に対し、どのような用法のとき、どのような特徴の中国語を分かりやすく提示すればいいのかを考察した。

## 1. 「～ておく」構文の研究

先行研究では、「～ておく」を伴う構文に関して、アスペクト（動作の状態の持続や対象の変化を表すもの）、および「もくろみ」（前接動詞の表す動作が、行為者のどのような意図で行われているか）という2通りの研究視点がうかがえる。前者のアスペクトに関する論文には、高橋（1969）、吉川（1976）などが挙げられる。後者の「もくろみ」に関する論文には、笠松（1993）、谷口（2000）などが挙げられる。現在では、後者の「もくろみ」の立場の方が、研究の主流になりつつある。

### 1.1. 高橋氏の研究

高橋（1969）は、「～ておく」をテ形に補助動詞「おく」を接続させたもので、「～ている」と同様にアスペクトを表すものと捉えている。そして、動詞の表す動きの過程のどの部分を問題にするかという、文法的な意味を「すがた」と捉えている。たとえば、「そろそろあちらへお床をのべておきましてもよろしゅうございますか」、「今まで物置にしておいた二階の三畳と六畳を～」において、「すがた動詞」は「対象を変化させてその結果の状態を持続させる」ことを表す。すなわち、「～ておく」の前接動詞における動きのある局面を表しており、アスペクトと言い換えることも可能である。また、高橋氏は「すがた動詞」を「状況を作り出す過程」と「状態を保持する過程」の2つの過程に分類している。

(1) 8時まで戸を開けておいて下さい。（状況を作り出す過程を強調する）

(2) 8時まで戸を開けておいて下さい。（状態を保持する過程を強調する）

(1) は、ある期限までに、ここでは8時以前の時間に「開けている」という状況を作り出して、それを保持させることを表す。それに対して、(2) は、8時まで「開けておく」という状態を保持させることを表す<sup>1</sup>。

また、高橋氏は「すがた動詞」で表せないものを、「もくろみ動詞」として切り離している。「もくろみ動詞」は、動詞の表す動作が何のために行われるかという文法的な意味と定義される。話し手の意志や意図を表し、ムードと言い換えることもできる。そして、「もくろみ動詞」を下記の機能に分類している。

(1) 次に起こる事柄のために準備的な動作として行なう動作を表わす。

○前もって積み立てておくというように。

(2) 体験する動作を表わす。

○俺も一度その人に会っておこう。

(3) とりあえずの動作、仕方なくする動作、故意にする動作を表わす。

○新聞小説の注文が来ないのは、自分があまりにも純粋な芸術家だからである、とでも思っておくこと。

(4) 「しておいて/おきながら」で「したにもかかわらず」の意味を表わす。

○あれだけの衣装を着た女を殺しておきながら、頭の物に気がつかないとは。

以上のように、高橋氏の説では、前節動詞の「すがた」に主眼をおき、「もくろみ」を例外的な動詞として位置づけている。しかし、「すがた動詞」と「もくろみ動詞」を切り離すという考えに反し、実質的には「すがた動詞」にもくろみ性がつきまとう場合、「もくろみ動詞」にすがた性がつきまとう場合もみられる。

## 1.2. 吉川氏の研究

「～ておく」をアスペクトとして捉える立場は、吉川（1976）の研究にもみられる。吉川氏も、アスペクト体系に所属する一つの形式の立場を取っている。その上で、「もくろみ」の存在を認めている。そして、下記のような7種類の機能を説明している。

- (1) 対象の位置を変化させ、その結果の状態を持続させることを表す。
- (2) 対象を変化させ、その結果の状態を持続させることを表す。
- (3) ある時までに対象に変化を与えることを表す。
- (4) 放任を表す。
- (5) 準備のためにする動作を表す。
- (6) 一時的処置を表す。
- (7) 幾つかなの特例。

以上の分類において、吉川氏は(1)～(5)をアスペクトと、(6)、(7)を「もくろみ」と規定している。したがって、「～ておく」をアスペクトとして一元的に捉えていない部分では、高橋氏の説と重なりがみられる。ただし、高橋氏が「～ておく」を「すがた」と「もくろみ」に切り離しているのに対して、吉川氏は「～ておく」を基本的にはアスペクトとしながら、「もくろみ」を派生的な意味として位置づけている。

なお、高橋氏と吉川氏の説から、「～ておく」構文の「状況を作り出して、その状態を持続する」という特徴は、「～ている」構文の研究にみられる「結果の残存」の現象と共通する。この現象の定義は、「ある動きが終わり、その動きの結果生じた新しい状態が、基準時に主体に存在・持続していることを表す」というものである。

## 1.3. 笠松氏の研究

先行研究では、動作の状態持続や対象変化を表すアスペクト、準備や一時的処置を表す「もくろみ」など、両者を意識した研究が多数である。このような研究の流れにおいて、笠松（1993）の説は、「～ておく」の用法のすべてを「もくろみ」として認めたものである。笠松氏の説では、「『しておく』は《もくろみ動詞》であり、予想される出来事にそなえて、なんらかの《結果的な状態》をのこす、意図的な動作をあらわしている。もくろみ動詞にさしだされる動作は、つづく場面がおこってくるまえに、終了していて、なんらかの《結果的な状態》をのこす動作である。したがって、この動作には《おわりの限界の達成》というアスペクト的な意味がつきまわっている」(p123)と説明している。

すなわち、笠松氏は「～ておく」を「もくろみ」にアスペクトがからみついたものと

主張している。上記の引用にあるように、笠松氏の「もくろみ」は「準備性」と言い換えることもできる。しかし、「～ておく」の用法のすべてに「準備性」を認めるのには問題が残る。たとえば、「一応、先生にも連絡しておこう」、「日本語一級は取っておきたい」という表現では、すべてを「もくろみ」として括ろうとすると、「準備性」よりも広い概念で捉えなければならない。

#### 1.4. 谷口氏の研究

この「もくろみ」の内実に関して、谷口（1999）は、さらに詳細な検討を行っている。谷口氏は「～ておく」の「もくろみ」には、先の「準備性」と、事態の終結を表す「終結性」という2側面が存在すると指摘している。また「終結性」を表す用法を、下記のような「用心・警告」、「自己納得」、「仮初（かりそめ）の行為」、「聞き手への配慮」などの4種類に分けている。

- 今日はこれぐらいにしておこうか。（用心）
- 一言言っておくが、二度と失敗は許さんぞ。（警告）
- 元気なうちに、いろんな国を旅行しておきたいんだ。（自己納得）
- まあ、一応、考えておきましょう。（仮初の行為）
- いらっしゃい。お安くしておきますよ。（聞き手への配慮）

以上の例文からも分かるが、「準備性」の他に「終結性」を表す用法も存在する。これらの特徴は、「準備性」に当てはめることができない具体例に対して、一定の結論を示したと言える。また、谷口（2000）は両者の関連性について、「『～ておく』という一つの文法的形式が準備性、終結性といった相反する性質を持つことは一見矛盾した現象のように思われるが、このことは、『～ておく』の本来的機能を『処置的動作』ととらえ、文脈上、それがあつたことの前段に置かれた場合には事前処置（準備性）としての、そのことの後段に置かれた場合には事後処置（終結性）としての機能が働くと考えることによって一応の説明がつくものと思われる」（p8）と説明している。

## 2. 「～ておく」構文の中国語訳

先行研究から、「～ておく」構文が多義性・多機能を持つことは周知の通りである。これらの特徴を中国語で表すと、意味の捉え方により、1つの用法に複数の中国語が対応する。中国人日本語学習者が「～ておく」の意味を把握できない要因でもある。さらに、対応する中国語が意味を正確に表すとは限らない。アスペクトやムードを表さない、さらには、意味が異なってしまう場合もある。このような特徴は、中国人日本語学習者の「～ておく」の誤解や誤用にもつながっている。言い換えれば、このような特徴から、誤解や誤用の予測が立てられるものと思われる。以下において、どのような用法のとき、どのような中国語が対応するのかを提示していく<sup>2</sup>。その際に、先行研究の用法を参考にする<sup>3</sup>。そして、どのような特徴が、中国人学習者の誤解や誤用を引き起こしやすいのか

を分析する。分析にあたっては、「中日対訳コーパス」から得られた392例を言語資料として利用した<sup>4</sup>。

### 2.1. 「状況を作り出す過程」を表す場合

この用法の中国語では、アスペクト助詞の“了”が対応しているのが確認できた<sup>5</sup>。動詞の後ろに付く助詞の“了”は、動作の完了や実現を表す。たとえば、以下の例文などがそれである。

○実は李富春が鄧小平との友情に免じて、一瓶だけ酒のかわりに水を詰めておいたのである。（原来，还是李富春和邓发念着友情的份上，弄了一瓶白水权充作酒，）

○私も、見物に行ったもののひとりである。その前に蠟燭を一組とどけておいた。（我也是去看的一个，先送了一份香烛）

それぞれ、「詰めておいた」と「届けておいた」を、“弄了”と“送了”としている。これは完了を意識したもので、実質的には「詰めた」と「届けた」を意味している。つまり、「結果の残存」の現象における「状態を持続する過程」を表していない。その結果、中国人日本語学習者の中には、完了と持続という2段階のアスペクトの特徴を、イメージできていない学生も存在すると考えられる。その後の持続を説明するのに、後述する“在”や“着”を用いる必要があるだろう。

したがって、中国人学習者に対して、「日本語の『～ておく』は、まず、中国語の“了”のように、動作が終わったことを表します。そして、覚えてください。その後、中国語の“在”や“着”のように、状態が続いていることを表します」のように、完了から持続までのつながりを説明すれば分かりやすい。その際に、このような例文を提示すれば、より効果的である。

### 2.2. 「状態を持続する過程」を表す場合

この用法の中国語では、結果補語の“在”や、アスペクト助詞の“着”が対応しているのが確認できた<sup>6</sup>。

まず、動詞の後ろに付く動詞の“在”は、動作や行為の結果を表す。ここでの“在”は、「ある場所に落ち着く」という意味である。たとえば、“放在”（～に置く）がそれである。しかし、前後の文脈によっては、動態（変化）も静態（状態）も表すことができる。たとえば、“把书放在桌子上了”（机の上に本を置いた），“书一直放在桌子上”（ずっと机の上に本が置いてある）などがそれである。以下の例文は、後者の静態（状態）を表している。

○彼はその写真を机の前に飾っておいたら、きっといい脚本がかきたくなるだろうと思った。（他想，要是把这张照片挂在我的书桌前，一定能写出好剧本来。）

○私はいつでも自分の文章を手許に置いておくことのできるよう『交友論』を数部筆写させておいたほどです。（我也为了能经常把自己的文章放在手边就让他们抄写了几部

《交友论》。)

中国語母語話者に確認したところ、ここでの“放在”や“挂在”は、状態の意味が強く、変化の意味は希薄だと言う<sup>7</sup>。つまり、「～ておく」ほど、確実に変化の意味が含まれていない。あくまでも、「置いてある」と「飾ってある」の意味に近いであろう。

また、動詞の後ろに付く助詞の“着”は、持続を表す。“着”は、“放着”（～に置いてある）のような動作の完了後の結果の状態を表す。たとえば、以下の例文などがそれである。

○食べきれなくて置いておくと、悪くなってしまうのよ。（今天吃不完，搁着都要搁坏的！）

○祭壇にマリヤの像を掲げておくと、官吏も文人も庶民も仏僧もそれを拜んで脆く。（祭坛上悬挂着玛丽亚的画像，官吏文人百姓佛教僧都前来跪拜。）

それぞれ、「置いておく」と「掲げておく」を、“搁着”と“挂着”としている。これは「結果の状態」を意識したもので、実質的には「置いてある」と「掲げてある」を意味している。

このように、“在”も“着”も共通して、「結果の残存」の現象における「状況を作り出す過程」を表していない。この結果からも、中国人日本語学習者の中には、完了と持続という2段階のアスペクトの特徴を、イメージできていない学生がいると考えられる。その前の完了を説明するのに、前述した“了”を用いる必要がある。

繰り返し提示するが、「日本語の『～ておく』は、まず、中国語の“了”のように、動作が終わったことを表します。これを忘れないでください。その後、中国語の“在”や“着”のように、状態が続いていることを表します」のように、完了から持続までのつながりを説明すれば分かりやすい。その際に、このような例文を提示すれば、より効果的である。

### 2.3. 「放任」を表す場合

この用法の中国語では、結果補語の“在”や、動詞の“管”が対応しているのが確認できた<sup>8</sup>。

まず、「ほうっておく」には、「物を放置する」の意味がある。端的に言えば、「物を、そのままにして、ほうっておく」という状態である。ここでは、結果補語の“在”が使われている。以下の例文がそれである。

○文書を個人的に保管したり、勝手気ままにどこへでも放っておいたりしてはだめだ。（文件个人保管，喜欢放在哪里就放在哪里，这样不行！）

○力を合わせてそれを掘り起し、家まで運んで放っておいたのである。（就一齐动手，把它刨掉，搬回家，扔在那儿了。）

それぞれ、“放在”と“扔在”を「ほうっておく」としているが、実質的には「ほうってある」の意味である。ここでは、変化よりも状態を表している。「ほうっておく」

にも、このような特徴があるので、比較的近い内容だといえる。

また、「ほうっておく」には、「人を放任する」の意味がある。端的に言えば、「人に対して、干渉しないで、ほうっておく」という意味である。ここでは、動詞の“管”が使われている。

○まあ放っておけばそのうちになんとかなるだろうって思うようになったのね。(父母后来就以为反正不管也会自然好起来的。)

○むこうに面倒が起きたのに、放っておくわけにもいきまい。(他们遭了事儿，怎么能推三推四的不管呢?)

それぞれ、否定形の“不管”(かまわない)を当てている。ここでは、「世話をやかない、相手にしない」という意味の、「ほうっておく」を表している。なお、より細かく説明するため、“撒手不管”(手をひく)、“放手不管”(手放しでほうっておく)、“放任不管”(野放しにする)などの形を当てることもある。

このように、物を放置する場合は、結果補語の“在”で、人を放任する場合は、動詞の否定形“不管”で表される。中国人学習者の中には、この2つの特徴を押さえていない学生もいると考えられる。この2つのポイントの指導が大事である。

したがって、中国人学習者に対して、「日本語の『ほうっておく』には、2つの特徴があります。1つ目は、中国語の“在”のように、物がずっと置いてある状態を表します。2つ目は、中国語の“不管”のように、かまわないことを表します」と説明すれば分かりやすい。その際に、このような例文を提示すれば、より効果的である。

#### 2.4. 「準備のためにする動作を表す」場合

この用法の中国語では、結果補語の“好”や、副詞の“事先”が対応しているのが確認できた<sup>9</sup>。まず、動詞の後ろに付く形容詞の“好”は、動作の完成を表す。ここでの“好”は、「～し終わる」、「しっかり～する」という意味である。たとえば、以下の例文の“写好”(書き上げる)と“约好”(約束する)がそれである。

○この「箭牒」というのはイエズス会が自分たちで漢文で用意しておいた身分証明書を指すのだろう。(其中“答牒”可能是指耶稣会士自己用汉文写好的身份证明书。)

○お見合いはいつがいい? 李宜寧と約束しておくわ。(你看什么时候和李宜宁约好, 大家见见面?)

これらは、前後の文脈から、「しっかり～終わる」を意味している。準備に含まれる「仕上げる」の意味から、比較的近い内容だといえる。しかし、中国語母語話者に確認したところ、“好”は、「～までに」という意味が希薄だと言う。たとえば、“做好”(やってしまう)だけでは、期限の意味を持たない。あくまでも、聞き手の判断に委ねられる。期限の意味を持たせるには、“到明天为止做好”(明日までに、やってしまう)のように、文脈の助けが必要である。

なお、こうした特徴は、冒頭で紹介した、日本人駐在員の摩擦の要因となっている。

中国語母語話者に確認したところ、日本人駐在員の「これ、やっておいて」という表現を、“把这个做好”（これ、やって）という意味に捉えていた。つまり、「時間があつたら、やる」という意味である。さらには、“等会儿，再做”（あとで、やって）という意味にも捉えられると言う。「～ておいて」から、期限のニュアンスを受け取るのは、上級者でも難しいだろう。やはり、期限を提示してあげる必要がある。

また、副詞の“事先”は、「前もって」という意味を表す。“事先通知”（あらかじめ知らせる）のように、動詞の前に添えて、物事を実行する以前であることをいう。たとえば、以下の例文などがそれである。

○前もって公害対策の投資をしておけば、かえって安上がりになるということである。（事先投資防止公害，反倒可以节省费用。）

○前もって、できるかぎり厳密な計画をたてておかななくてはならない。（事先都应有尽可能的严密的计划。）

いずれも、「前もって」に“事先”を当てている。ここでは、前述した“好”とは、反対の問題がみられる。すなわち、期限ではなく、完成を表せない。ただ、後ろに来る動詞が、実現や達成を表すので、暗に完成の意味は含まれている。このような特徴から、比較的近い内容だといえる。なお、同じような特徴の、“先”（先に）、“预先”（あらかじめ）、“前”（～する前に）、“之前”（～の前）などが当てられることもある。

このように、期限と完成の2つの意味を表すのは難しい。中国人学習者の中には、両者の意味を押さえていない学生も存在すると考えられる。この2つのポイントの指導が大事である。また、“好”は、期限の意味が希薄であり、準備性を帯びていない。「あらかじめ～する」という準備の意味は、念を押す必要があるだろう。例文の中には、“事先做好”（あらかじめ、やってしまう）という表現もあったが、これなどは、ポイントを押さえた訳だといえる。

したがって、中国人学習者に対して、「日本語の『～ておく』は、準備するという意味を加えます。中国語の“事先～好”のように、『あらかじめ、～し終わる』という意味です。ある目的のために、準備するという意味です」と説明すれば分かりやすい。その際に、このような例文を提示すれば、より効果的である。

## 2.5. 「一時的処置を表す」場合

この用法の中国語では、結果補語の“在”や、副詞の“暂时”が対応しているのが確認できた<sup>10</sup>。“在”が状態を表すのは、前述した通りである。

○田川に預けておいても不安心だから、今日、行って、早かったら、芳子を家に連れて来る。（就是放在田川家，我也不放心。今天去看看，如果时间还早，我就把芳子带到家里来。）

○米ドルと香港ドルに換えて香港の匯豐銀行に預金しておけば、たとえ国内にいかなる大変化が起こったとしても、徐義徳にしてみれば、もう大丈夫である。（变成美金和



港钞存在香港汇丰银行，即使国内发生啥变化，徐义德也不怕了。）

ここでの、“放在”と“存在”は、「(人)を預けている」、「(金)を預けている」を表している。しかし、中国語母語話者に確認したところ、“在”は、「～まで」という意味が希薄だと言う。たとえば、“贴在墙上”（壁に貼ってある）だけでは、期間の意味を持たない。期間の意味を持たせるには、“大会期间，贴在墙上”（大会の間、壁に貼ってある）のように、文脈の助けが必要である。さらに、間接目的語（場所詞）を取らない場合には、用いられない。

また、副詞の“暂时”は、「しばらく」という意味を表す。“暂时休息”（しばらく休憩する）のように、動詞の前に添えて、少しの間であることをいう。たとえば、以下の例文などがそれである。

○県の方針が定まるまで黒人兵を村においておくことがはっきりすると、（我见暂时收容黑人俘虏一事已成定局，）

○後に残った帝国主義の経済事業、文化事業は、しばらく存続させておいてもよいが、（剩下的帝国主义的经济事业和文化事业，可以让它们暂时存在，）

いずれも、“暂时”により、期間の意味を表している。また、後ろに来る動詞が継続を表すので、暗に状態の意味は含まれている。このような特徴から、比較的近い内容だといえる。なお、同じ意味の“暂且”が当てられることもある。

このように、期間と状態の2つの意味を表すのは難しい。「準備のためにする動作を表す」場合の、期限と完成の問題にも通じる。中国人学習者には、この2つのポイントの指導が大事である。例文の中には、“暂时放在～”（しばらく、～に預けている）という表現もあったが、これなどは、ポイントを押さえた訳だといえる。ただ、細かいことを言えば、結果補語“在”の使用限度も考慮する必要がある。

中国人学習者に対して、「日本語の『～ておく』は、一時的に対応するという意味を加えます。中国語の“暂时～在～”のように、人や物を、『しばらく、～ている』という意味です。または、“暂时～”のように、『しばらく～』という意味です」と説明すれば分かりやすい。その際に、このような例文を提示すれば、より効果的である。

## 2.6. 「用心・警告」を表す場合

まず、用心を表す場合からみていく。この場合、前後の文脈によるところが大きく、一つの決まった中国語はみられない<sup>11</sup>。

○そう睨まないで……いや、今日はここまでにしておきましょう。（别那么瞪着我……不，今天就谈到这儿。）

○こういった笑い話は幾らでもある。だがもうこれ以上言うのは止めておこう。（这笑话多啦。我可不敢再说了。）

○これぐらいで、いまは、やめておきましょうか……。（就这些，该歇手了吧……。）

○聞く者を不愉快にさせるだけだから、これ以上披露するのはやめておこう。（为了不

给诸位添恶心，此外不便复述了。）

それぞれ、“今天就谈到这儿”（今日の話はここまでにしよう）、“我不敢再说了”（これ以上言うのはやめよう）、“该歇手了”（手を止めよう）、“此外不便复述了”（これ以上繰り返すのはやめよう）などのフレーズが対応している。「～ておく」の用心のニュアンスを表すために、さまざまなフレーズを当てている。しかし、“[没有时间了,] 今天就谈到这儿”（[時間がないので,] 今日の話はここまでにしよう）などでは、話し手の動作に、用心という微妙なニュアンスはみられない。あくまでも、前後の文脈によるものである。このようなことから、中国語から日本語に訳した場合、話し手の動作に、用心のニュアンスが反映されないこともある。「～ておく」の用心の意味を、中国人学習者に念を押す必要があるだろう。

また、警告を表す場合では、“我告诉你”などのフレーズが対応する。この場合、一つの日本語のフレーズに、複数の中国語のフレーズが対応する。以下、「言っておく」というフレーズを取り上げ、説明していく。

○言っておくが、おれはいま怒りかけている。（告诉你，我可要生气了！）

○もうひとつ言っておくけど、この先、二度とパパと口をきいたらだめよ。（我还要告诉你，今后你不要再跟你爸爸说话了。）

○言っておくが、俺から取ろうといっても無理だよ。（我先说明白，从我手里是拿不到的！）

○だけど言っておくが、君みたいに引っ込む人間がいるから、少数者が目立つことになるんだよ。（可是要知道，正是由于你这样的人往后缩，少数人才突出的。）

それぞれ、“我告诉你”、“我先说明白”、“要知道”などが対応している。これは間違いではないが、意味の幅に相違がみられる。中国語では、話し手の態度、語気の強弱によって、その表現の意味が変化する。たとえば、“告诉你”を弱く発音すれば、“我告诉你，明天有考试”（教えとくけど、明日テストがあるよ）という伝達の意味になる。場合によっては、“我告诉你，一个好消息”（聞いてよ、いいニュースがあるんだ）という朗報の意味にもなる。しかし、日本語では、これらの意味を形式的な表現で表す。中国人学習者の中には、このような特徴を理解していない学生もいるだろう。誤用しないためにも、注意事項とする必要がある。

このように、用心も警告も、特定の語彙というより、それぞれのフレーズが対応している。しかし、フレーズならではの問題もある。用心の場合、中国語の感覚で、前後の文脈により、そのニュアンスを表してしまう。つまり、使用傾向にない。警告の場合、これ以外の場面でも、「言っておく」で表してしまう。

したがって、中国人学習者に対して、「日本語の『～ておく』は、用心するという意味を加えます。動詞の後ろに『～ておく』を付ければ、『やめよう』という気持ちを表せます。また、『言っておくが』のように、相手への警告も表します。中国語の“我告诉你”に相当します。ただ、“我告诉你”は、弱く発音すれば、伝達や良い報告の意味

にもなります。この特徴は日本語にはありません。『言っておくが』の意味は、警告だけです。この場合、日本語では『教えておくけど』、『聞いてよ』などになります。気をつけてください」と説明すれば分かりやすい。その際に、このような例文を提示すれば、より効果的である。

## 2.7. 「自己納得」を表す場合

この用法の中国語では、助動詞の“想”や“要”が対応しているのが確認できた<sup>12</sup>。まず、“想”は、「～したい」という意欲や願望を表す。たとえば、以下の例文などがそれである。

○奥さんに、ちょっと電話していいですか。この前のお礼を言っておきたいんです。  
(可以给您太太打个电话吗? 上次的事, 我想谢谢她。)

○この手紙が着く頃には、もう何百キロも遠くにいるかもしれないな。君と別れる前にもっと色々話しておきたかった。(当你看到这封信的时候, 也许我们已经远隔百里千里了。离别的时刻, 我有多少话想对你说呀!)

それぞれ、「礼を言っておきたい」と「話しておきたい」を、“想谢谢”と“想说”で表している。これは願望を意識したもので、実質的には「礼を言いたい」と「話したい」を意味している。

また、助動詞の“要”も、「～したい」という意欲や願望を表す。“想”との違いは、“想”がやや婉曲的な表現なのに対して、“要”はストレートな表現である。たとえば、以下の例文などがそれである。

○今日、最後の授業で、みんなに伝えておきたい言葉があります。(在这最后一课上, 我要留给你们一句话, 希望你们永远记在心里。)

○この最後のときに、短かった生涯の楽しかったこと、苦しかったこと、記憶に値いするすべての事柄を、心ゆくまで思い出し、味わっておきたい。(在这最后的时刻中, 她要把她短短一生的快乐、痛苦, 和一切值得记忆的事情全好好的想一想、回味一下。)

それぞれ、「伝えておきたい」と「味わっておきたい」を、“要留”と“要味”としている。程度の差はあるが、「伝えたい」と「味わいたい」という願望を意味している。

谷口氏は、この用法を「話し手の単なる意思や希望を表わすだけでなく、そのことによって、あとで悔いのないように、自分の人生にひとつの『けじめ』をつけておきたい、といった話し手の心理が含まれる」と説明している。

しかし、中国語の“想”や“要”からは、このようなニュアンスは感じられない。すなわち、“想”や“要”を直訳した場合、話し手の動作に、けじめのニュアンスは反映されない。「～ておく」のけじめの意味を、中国人学習者に念を押す必要があるだろう。学習者本人の、「～ておく」の意図的な使用が望まれる。

したがって、中国人学習者に対して、「日本語の『～ておく』は、『～したい』という願望を表します。これは、中国語の“想”や“要”と同じです。でも、『～ておく』

には、『自分が納得したい』という意味も加わります。動詞の後ろに『～ておく』を付ければ、願望の意味、そして、このような『はじめ』の意味も表せます」と説明すれば分かりやすい。その際に、このような例文を提示すれば、より効果的である。

## 2.8. 「仮初の行為」を表す場合

この用法の中国語では、“我想想看”などのフレーズが対応している<sup>13</sup>。この場合、一つの日本語のフレーズに、複数の中国語のフレーズが対応する。以下、「考えておく」というフレーズを取り上げ、説明していく。

○「そうねえ、考えておくわ、それ」とレイコさんは言った。（“呃，想想看。” 玲子说，）

○「考えておくよ。もし、どうしてもおまえが当分独りでやりたいというなら、それでもかまわない」（“我再想想吧。你如果一定要暂时单干，也可以。那就单干吧。”）

それぞれ、“我想想看”や“我再想想吧”が対応している。また、同じ意味のフレーズに、“考虑考虑”、“研究研究”、“让我想想”、“让我考虑一下”などがある。

彭（2004）は、この用法について「即答を避ける場合に用いる『考えておきましょう』はその可能性がゼロではない場合もある。断りに用いることが多いが、地域によって、また人によってさまざまである」と説明している。さらに、中国語母語話者に確認したところ、これらの中国語にも、言外の意味と、真意の意味があると言う。つまり、日本語と同様、ケースバイケースなのである。中国人学習者に対して、決まり文句だと断言するのは、時期尚早である。この認識の対照研究については、別の機会に譲ることとする。ここでは、全体像の把握に留めたい。

こうしたことを考慮して、「日本語の『～ておく』は、『考えておきます』のように、相手への断りも表します。中国語の“考虑考虑”に相当します。“考虑考虑”と同じで、断っている場合もあるし、考えている場合もあります。場面によっても、人によっても違います。ただ、日本では、ほとんど断る意味で使われているようです」と説明すれば分かりやすい。その際に、このような例文を提示すれば、より効果的である。

## 2.9. 「聞き手への配慮」を表す場合

この用法の中国語では、介詞の“给”が対応しているのが確認できた<sup>14</sup>。介詞の“给”は、主に名詞の前に置き、その対象を表す。“我给你打电话”（君に電話するよ）での「～に」や、“我给你帮忙吧”（君のために手伝ってあげるよ）での「～のために」などを表す。たとえば、以下の例文などがそれである。

○お前には何もしてやれなかったので、歯ブラシの柄を拾ってきて、将棋の駒を作っておいたよ。（一辈子也没给你留下什么，只捡人家的牙刷把，给你磨了一副棋。）

○わたしは、おまえさんのために、金持の家の家庭教師の口を、見つけておいたんだが、いくかね？（我给你找了个老财家里去教学。你愿意去么？）

それぞれ、“给你磨”と“给你找”で、「研いでおく」と「探しておく」を表してい

る。これは親切な行為を意識したもので、直訳としては「研いであげる」と「探してあげる」を意味している。聞き手に利益や恩恵を与える「ヤリモライ」文である。これについて、中国語母語話者に確認したところ、この“給”には、このような恩着せがましいニュアンスはないと言う。実質的には「研ぎます」や「探します」の意味に近いだろう。しかし、「～ておきます」の方が、より控えめで、配慮した表現であることに変わりはない。

なお、こうした特徴は、冒頭で紹介した、中国人留学生の摩擦の要因となっている。「調べてあげます」のような、「ヤリモライ」文での誤用はよく耳にする。これは、中国語の“给”と日本語の「～てあげる」を、過度に結びつけた結果である。日本語にすることで、親切心を強調するようなニュアンスが生まれてしまう。このような違いを認識し、中級者レベルでは、「調べます」という表現に変える学生が多い。ただ、上級者レベルになっても、「調べておきます」という表現が出てくる学生は少ない。これは、「～ておきます」に相当する中国語が、見当たらないからである。やはり、この用法の実用性を教える必要がある。

中国人学習者に対して、「日本語の『～ておく』は、『～ておきます』として親切な気持ちを表します。中国語の“给”よりも、遠慮していて、やわらかい表現です。とても便利な表現なので、覚えましょう。なお、中国語の“给”を、日本語の『～てあげます』に訳す人がいますが、これは、目上の人や親しくない人に対して、とても失礼な表現になります。気をつけましょう。また、『～します』でも、丁寧な表現とは言えません」と説明すれば分かりやすい。その際に、このような例文を提示すれば、より効果的である。

### 3. まとめ

補助動詞の「～ておく」は多義性・多機能の特徴を持つ。また、それを担う中国語も多様である。このような特徴こそが、中国人日本語学習者にとって理解に苦しむところとなっている。本研究では、日中対照分析の手法を用いて、両言語の相違点を導き出した。そして、どのような指導が、中国人学習者の理解につながるのかを考察した。指導の内容は、アスペクトからムードまで多岐にわたる。次頁に、各用法の指導上のポイントをまとめたい。

このように、各用法において、中国人学習者の見落としがちなポイントを指導していくことで、補助動詞「～ておく」の習得にもつながるだろう。すべて中国語で説明するのが望ましいが、片言の中国語でも、学習者はイメージをつかむことができる。また、すべて日本語でも、指導上のポイントさえ押さえていれば、効果は得られるだろう。本研究で得られた指導ポイントは、日本語教師の指導向上につながるものと思う。

状況を作り出す過程	中国語では、「結果の残存」の現象の「状態」を表せない。中国人学習者にとって、アスペクトの全体像は把握しにくいと予測される。よって、中国語の“了”（変化）の後に、“在”や“着”（状態）があることを説明すれば分かりやすい。
状況を持続する過程	中国語では、「結果の残存」の現象の「変化」を表せない。中国人学習者にとって、アスペクトの全体像は把握しにくいと予測される。よって、中国語の“了”（変化）の後に、“在”や“着”（状態）があることを説明すれば分かりやすい。
放任	中国語の“在”や“不管”に相当する。よって、“在”（物の放置）と“不管”（かまわない）から説明すれば分かりやすい。こうすることで、2つの機能を押さえられる。
準備のためにする動作を表す	中国語では、「期限」と「完成」の両方を表せない。中国人学習者にとって、期限と完成の意味はつかみにくいと予測される。よって、“事先～好”（あらかじめ～し終わる）という構文から説明すれば分かりやすい。
一時的処置を表す	中国語では、「期間」と「状態」の両方を表せない。中国人学習者にとって、期間と状態の意味はつかみにくいと予測される。よって、“暂时～在～”（しばらく～ている）、または“暂时～”（しばらく～）という構文から説明すれば分かりやすい。
用心・警告	前後の文脈によるところが大きく、一つの決まった中国語はみられない。「～ておく」は使用傾向にないことが予測される。「やめよう」という気持ちがあることを説明すれば分かりやすい。中国語の“我告诉你”（言っておくが）に相当する。ただ、“我告诉你”は、語気の強弱により、幅広い意味を持つ。そのため、発話での誤用が予測される。そのうちの、警告の意味だけであることを説明すれば分かりやすい。
自己納得	中国語の“想”や“要”に相当する。ただ、“想”や“要”には、けじめのニュアンスは含まれない。「～ておく」は使用傾向にないことが予測される。「自分が納得したい」という気持ちがあることを説明すれば分かりやすい。
仮初の行為	中国語の“考虑考虑”（考えておきます）に相当する。同じように、どちらの意味にも受け取られる。また、場面や人によっても違う。このことを説明すれば分かりやすい。こうすることで、発話での実用にもつながる。

聞き手への配慮	中国語の“给”に相当する。ただ、“给”には、控えめなニュアンスは含まれない。「～ておく」は使用傾向にないことが予測される。遠慮していて、やわらかい表現であることを説明すれば分かりやすい。また、「～てあげる」という表現が、目上や親しくない人に対して、失礼であることを伝える必要もある。
---------	---

しかし、「～ておく」の機能の一部は、「～ておこう」、「～ておきたい」などの表現形式が規定しているのでは、という文法的な疑問もある。そして、より確実な研究するためには、まず、日本語の「～ておく」の特徴を明らかにする必要がある。対照研究以前に、日本語研究を確立しなければならない。これは日本語研究、および日本語教育研究のテーマでもある。今後、このような課題を解決していくことで、日本語教育の発展に貢献できればと思っている。

#### 注

1. 高橋氏は、(1)のような状況語の「～までに」が来ると、「状況を作り出す過程」が全面的に押し出されると説明している。それに対して、(2)のような状況語の「～まで」が来ると、「状態を保持する過程」が押し出されると説明している。
2. 提示する中国語は、全例文のうちの20%以上を基準としている。いずれも助詞、助動詞、動詞、慣用的な語句など、カテゴリー化できるものである。それ以外は、直訳として扱っている。
3. 先行研究の用法は、およそ高橋氏の「状況を作り出す過程」、「状態を持続する過程」、吉川氏の「放任」、「準備のためにする動作を表す」、「一時的処置を表す」、谷口氏の「用心・警告」、「自己納得」、「仮初の行為」、「聞き手への配慮」にまとめられる。これはアспектからムードの流れにおいて、ポイントとなる用法を抽出していったものである。本研究の用法は、この9分類によるものである。
4. 本来の総数は1056例であり、そこから、確実に判断できる例だけに絞った。また、「～ておく」の縮約形「～とく」の例は使用していない。
5. 同用法の中国語では、35例のうち、直訳が16例、その他が11例、助詞の“了”が8例、であった。
6. 同用法の中国語では、52例のうち、結果補語の“在”が20例、直訳が15例、助詞の“着”が12例、その他5例がであった。
7. 中国語母語話者は、日本語上級者3名である。
8. 同用法の中国語では、87例のうち、その他が41例、動詞の“管”が23例、結果補語の“在”が12例、直訳が11例であった。
9. 同用法の中国語では、93例のうち、結果補語の“好”が32例、その他が28例、副詞の“事先”が23例、直訳が10例であった。

10. 同用法の中国語では、32例のうち、その他が13例、直訳が7例、結果補語の“在”が6例、副詞の“暂时”が6例であった。

11. 用心を表す場合では、13例のうち、直訳が8例、フレーズが5例であった。また、警告を表す場合では、39例のうち、すべてがフレーズであった。

12. 同用法の中国語では、14例のうち、助動詞の“想”が7例、“要”が4例、その他が2例、直訳が1例であった。

13. 同用法の中国語では、12例のうち、フレーズが6例、直訳が6例であった。

14. 同用法の中国語では、15例のうち、介詞の“给”が7例、直訳が7例、その他が1例であった。

#### 参考文献

- 笠松郁子 (1993) 「『しておく』を述語にする文」 (言語学研究会編、『ことばの科学 6』、むぎ書房) pp. 117-139
- 小泉保・船城道雄・本田儿治・仁田義雄・塚本秀樹編 (1989) 『日本語基本動詞用法辞典』 (大修館書店)
- 高橋太郎 (1969) 「すがたともくろみ」 (『日本語動詞のアスペクト』、むぎ書房) pp. 117-153
- 谷口秀治 (1999) 「『～ておく』形式のムード的側面とその用法について」 (『大分大学教育福祉科学部研究紀要 21-(2)』) pp. 169-178
- 谷口秀治 (2000) 「『～ておく』に関する一考察—終結性を持つ用法を中心に—」 (『日本語教育 104号』、日本語教育学会) pp. 1-9
- 彭飛 (2004) 『日本語の「配慮表現」に関する研究—中国語との比較研究における諸問題—』 (和泉書院)
- 森田良行 (1989) 『基礎日本語 1』 (角川書店)
- 吉川武時 (1976) 「現代日本語のアスペクトの研究」 (『日本語動詞のアスペクト』、むぎ書房) pp. 155-323
- 「中日対訳コーパス」 (北京日本学研究中心)